

マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



絵：エイルさん

2023

10月号

- 2 理事長挨拶
- 4 塀の中のたより
- 10 ささきみつおコーナー
- 16 健康相談窓口

- 18 福音たより
- 21 ラブリー DAY
- 22 育児日記
- 23 お知らせ

理事長挨拶

季節外れの暑さが続いております。季節の挨拶に矛盾を感じ、戸惑っている人は多いのではないのでしょうか。私もその一人です。

さて、マザーハウスでは、出所者には、最初に自分と向き合うことをお勧めします。しかし、今回は、マザーハウスとは何のための団体なのかや、その取り組みについて、特に機関紙である「たより」について向き合ってみたいと思います。

もちろん、加害者支援が目的です。ところで、支援にもいろいろありますが、最も重きをおくべきなのは、再犯を減らすことだと考えています。「たより」では、それに反する、又は関わりのないことについては、発信する必要を感じていません。そういう意味で加害者、特に受刑中の人にとって必要な支援とは何でしょうか。社会復帰の支援、基、就労支援が大枠となると思います。そうすると、そのために刑務所に働きかけることと、受刑中の人たちに働きかけることの2つに分かれると思います。

以上を考慮に入れ、特に「堀の中たより」について、今まで他の刑務所との比較などの内容が多いのですが、

受刑者同士の情報交換などについては、今後一切掲載いたしません。ただし、刑務所の環境の改善や問題に感じていることのご意見、疑問などは、誹謗中傷や批判ではないことであれば、積極的にお手紙をいただければと思います。法務省などへの貴重な提言材料として重宝させていただきます。

なぜ受刑中の人たち同士の情報交換の掲載を見合わせるかについて説明します。刑務所内と社会は別の世界のようなだと思います。そうすると、出所は別の世界に出ていくのと似ているということになります。別の世界に移り住んでも元の世界のルールや常識を引きずっているとその世界になじめず、もとの世界にもどったり、似たケースの人だけで集まり、そのまま元の世界のルールを適用しようとしています。もちろん通じませんし問題を起こします。このケースは、来日した外国人と似ています。彼らと接する機会の多い私は、彼らに最初に、しかも強く言うのは、日本にいる同邦（※信用できる機関を介してや、前から知り合いで一緒に来日した人などは除く）とは接してはいけないということです。外国人の犯罪は、そこから始まるケースが殆どだからです。再犯と似ていると思います。

社会が正しいとは言いません。しかし受け入れる側は社会であり、受刑中の人が出所した場合、受け入れてもらう側です。マザーハウスでは「たより」を通して、受

刑中の人が、社会復帰を目指していること、真面目に更生に取り組んでいること、自分のしたことを認め悔い改めていること、実は特別な人ではないこと、刑務所に対する疑問・要望・意見などを発信し社会が受け入れてくれるよう筋道を作り、支援すべきという潮流につなげようと思っています。それは内容だけではなく、文書での言葉遣いも大きく作用します。刑務所も改善すべきところは改善すべきという潮流を同様社会に引き起こしたいとも思っています。避けなければならぬのは、「全く変わらずに刑期が終わるだけか」とか「これだから再犯が多いのか」という認識を社会に与えることです。

ところで、これらは誰のために言っているのでしょうか。私の名誉のためでしょうか、マザーハウスが善い団体というPRまたは印象操作のためでしょうか。声を大にして言います。本気で更生を考えているすべての加害者のためです。私の名誉やマザーハウスの評価が結果としてついてきても、それは私にもマザーハウスにも関係のないこととさえ思っています。もしマザーハウスの目的をうまく達成できる人がいるのなら、私はすぐにでも理事長を辞し、譲ってもいいとさえ思っています。

ところで、ありのままを伝えることの何が悪いのかという人は当然いるでしょう。もちろん手紙にありのままを書くことは自由です。返事も適切にさせていたくつもりです。しかし内容が「たより」の目的と合わない場

合は、掲載されないだけです。手紙はラブレタープロジェクトも含めて、受刑中の人が、刑務所外と接する重要な手段だと思っています。それにより社会を認識し、ルールやマナーを思い出し、できるだけスムーズに社会になじみ、就労の役に立てばいいと思っています。手紙の返事を書いてくださっている方たちは、前述の「たより」の目的を意識して、変化のないように見える受刑者の方にも愛により、忍耐強く継続していただければ幸いです。マザーハウスは、神が善人にも悪人も雨を降らせてくださるように、キリストがエマオとともに歩んでくださったように、すべての受刑者が更生することを願っているからです。

受刑者の社会復帰という大きなテーマにおいて、受刑者の皆さんもチームの一員です。その役割は、社会が受け入れてくれるよう変わることだと思います。社会はそれを理解し、刑務所はそのサポートをする、マザーハウスは、その潮流を起こすこと、それぞれが、愛による忍耐で役割を果たせば、必ず実現すると希望を持ち信じます。アーメン

マザーハウス 理事長 原田 昇

塀の中のたより

刑期1年を切って

少刑 M塾はるかさん

刑が始まってから何度目かの夏を迎えたこの8月、残刑が1年を切ったことを、ここにご報告させていただきます。

私が当所に入所した頃は少刑独特の約束事が多く、工場内で誰かしら揉めているという気が休まる暇が1秒たりともない緊張感ある雰囲気です。それでもないところに来てしまったななどと思っ
ていてコロナもマスクもない、色んな面で「元氣な」刑務所でした。そこから毎日夜18時〜20時54分までTVが見られるようになったり、布巾・スポンジ・雑巾が個々に貸与されるようになったりと様々な変化を経験し、コロナを経験しました。

今思うと、1、2年は感染防止に全く実効性のない、とにかく規制され「コロナ」と言えば何でも許されると思っているかのような扱いを受けてきました。振り返っても「決して許せない扱いを

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



受けてきたな」と思うものの、そんな理不尽な経験他、数々痛めつけられた受刑生活で逆によかったと思います。ただでさえ規制の多い刑務所で更に色々と規制される経験を積んで、コロナウィルスに感染して本当に死にかけて不自由極まりない生活を送ったことでこんなところ2度と来てたまるか！と強く思えたからです。

そして残刑が1年を切った今は、物価高による食事の質の低下や集会の金額が変わらないという不満すらも「あと少しかー」と感慨深いですし、2度と来るまいと決意を強くさせてくれる良い機会と思えます。アフロ犬さんにももう2度と感じずに済む不満として残刑を噛みしめることをオススメしたいです。「そんなことより社会ですよ！やっと出られますよ」と。

経験豊富な先輩方に質問があります。

- (1) 出所までにすべきこと
- (2) 出所後にすべきこと

是非伺いたいです。

出所後の残された時間

Y 刑 フォルトウナさん

出所後、私に残される時間は、80歳を寿命として考え、65歳からを余生とするのならば20数年程となる。

20代、30代を丸ごと施設で過ごした私にとってまちがいなくかけがえのない20数年のこの時間をどう生きたらいいのか、私はまだ答えを見つけないでいる。私達は一步步確実に「死」に向って歩いている。ガキの頃、永遠に続くと思っていたこの時間はあつという間になくなってしまいう有限なものだった。

私は、もう自分の最大資源である「時間」をムダに使いたくない。施設や人に対する不満、ねたみ、漠然とした意味のない怒り。こんなもののために大事なリソースを割くくらいなら、自分に与えられたものをどう人生に活かせば良いのかを全力で考えるべきだと思う。

自分がキラйнаヒト、コト、モノに思考を働かせるという行為はそれらのものから人生を搾取されることと同義です。ですから、私は極力自分のリソースを搾取されることを防ぎ、少しでも多くのことを学べるように日々様々な出来事にアンテナを張りながら生活しています。

施設の食事への不満が頭をよぎったときは、炊場に約5年居た経験から各メニューに掛かるコストを算出して、一食あたりの価格を予想してみたり、本で読んだ社会心理学のスキルは刑務所の中でも使えるのか色々な人で試してみたり。自分のために小さなことを少しずつ学んでいけば、必然的に他人から時間を奪われることも減り自分の資源を守れるし、資産を増やすことにも繋がります。

出所後に残される少しの時間のために、今生きている時間をどれだけ投資できるか、どれだけ行動に移すことができるのか。私はこれらを自分のプライオリティとして毎日を過ごしています。みなさまは残された時間のためになにかをされていることはありますか？宜しければ教えていただけると幸いです。

最後となりますが、誰しもが自分の中に色々なものを抱えながら日々キツイ受刑生活を送ってらっしゃることと思います。刑が1年減れば命の灯も短くなる。そんな残酷な現実の中に生きている私達ではありますが、それでも進まねばなりません。このタフな道のりを、みなさまが心を強く持って歩いていけるよう、私は祈り、願っています。

視察委員会

A 刑 ドブねずみさん

皆様は視察委員会を活用していますか？私はこちらの施設に来て、4年目に入りましたが、はじめの頃は、刑務所という場所はこんな感じなんだと思い、理不尽な事も「流す」様にしていました。しかし、周りの方々の話を聞き、自分の目で見て、聞いているうちに「このままでは駄目だ」という気持ちが強くなり、視察委員会に見・提案を書くようになりました。私一人の「力」では何も変わらないのはわかっていますが、声に出すという事は本当に大切で、私たちが過ごしやすい環境を作るために必ず必要な事です。今日は最近書いた文章を先に掲載したいと思います。

まず私は「居室での汗拭き」について、とテーマを書きます。現在、居室でタオル・ハンカチを使つての汗拭きが認められていません。汗や体を拭くときは「ボディシート」を購入して拭く事は認められているのですが、ボディシートは590円します。購入できる人は汗や体を拭くことが出来、購入出来ない人は汗や体を拭く事が出来ないシステム。決め事はおかしくありませんか？私はボディシートを購入出来ません。タオル、ハンカチで拭く事が認められないのなら、刑務所側でボディシートを配布するべきです。

皆さんは居室内での生活をした事がないのでわからないと思います。居室の中は風通しが悪く、エアコン、扇風機などありません。団扇は配布されますが、これだけでは汗が止まりません。本当に体はバタバタになります。衛生的にも問題がある様に思います。休日の2日間、矯正指導日がある時は3日間居室の生活になります。

何故、タオル、ハンカチで汗や体を拭く事が問題なのか？を知りたいのです。刑務所を運営するにあたり、どのような支障があるのか？頭を拭く事も出来ないため、頭も痒く、本当に不潔です。受刑者は人としての扱いをされないのでしょうか？普通に考えて、暑ければ服を脱ぐ、寒ければ服を着るのは当たり前で、汗をかけば拭く事は自然の出来事です。職員は「社会に戻ったら」、「社会では」と言いますが、私たち受刑者は社会に適した生活を送る事をさせてもらっていません。今回書いたタオル、ハンカチを使つての汗拭きの他に、食器口の扉を空けていただきたい。食器口を空けるだけで、本当に風通しが良くなります。一度、視察委員会の皆様で試してください。お願いします。

これは、私一人の声ではありません。受刑者の皆が思っている事なのです。他にも改善点はいろいろあります。一度受刑者にアンケートを取るべきです。見えない所も色々見えてくると思います。宜しくお願い致します。最後に称呼番号、氏名、工場名を書きます。

A 刑務所では、便箋に書き、意見、提案書に出席出来るので、私はこの様に現状を書き、どう変えたいのか、その理由を確り書きます。ただ「こうだ」「ああだ」と書いても、読む方も嫌だし、ガス抜きだと思われ、取り扱ってもらえない様に思うので、どうせ書くなら確り意志を伝える方法を取ります。

今回は少し辛口な事を書きます。書かせて下さい。皆さんは刑務所に刑務官に「首輪」を付けられていませんか？ペットになっていませんか？煽るわけではありません。犯罪者という事で、人としての扱いをされていない様に思う事もあるし、更生にまったく関係ない事もいっぱいやらされています。やっています。職員の考えの更生。これは更生ではなく、刑務官の気分、自己満足、得点稼ぎに私たちは振り回されているのです。「おや？」と思った事は皆様はないですか？

職員によって言う事が違う。工場によってやり方、居室内生活が違う。本当に数え切れない程、色々あります。声を出すという事は悪い事ではありません。法務省も所長も視察委員会の方々も私たち受刑者は、どの様な環境で生活をしているのか？送っているのか？まったくわからないのです。刑務所を変えるのは、私たち受刑者一人一人



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -

の声なのです。

これからの社会は、受刑者とか関係なく、一人の人としての取り扱い方が重要視される時代です。私の更生に向けての考え方は、刑務所、職員が私たちと確り向き合い、私たちの声を聞き、取り組み、私たち受刑者と職員の信頼関係を築き上げる事だと思っています。この信頼関係が出来れば、必ず更生に結びつきます。今の現状は、若手の職員も受刑者に対し上から目線で、刑務所という場所なので、ヤクザの方々も温和しくしているので、刑務官は「支配」した気分になるのでしょうか。それがそもそもの間違いなのです。何度も書きますが、確り向き合い、信頼関係を築き上げる事を一番に考えるべきなのです。そうしなければ、何十年経つても刑務所そのものは変わりません。

最後に、皆様の声を聞かせてください。「私のいる刑務所で、この様な事があったなど」「おや？」と思った事を教えて下さい。良い事もたくさんあると思います。「私の刑務所では、この様な取り組みをしている」など。他の施設では、この様な取り組みをしていると提案ができるので、皆様お願いします。私の様に声を上げている同志の皆様、共に頑張り、私たちの過ごしやすい環境を築き上げていきましょう。

無期懲役囚の皆さんに聞いてみた

いこと

I 刑 リンリンさん

たよりを読んでいると無期懲役囚の方も多く見受けられ、皆さんにどういう思いでこの長い刑期を送られているのか、私の思いを読まれた上で、もしよろしかったらご返答頂けたらと思います今回書く事にしました。

私は31年前に強盗殺人事件を起こし当時付き合っていた彼と共に1審で死刑判決になりました。生きる事に執着のなかった私は当時27歳でしたが、早く死ねて良いと思い、死んで罪を贖うのが私の取るべき道と思いながら、弁護士に勝手に控訴されて2年もの無駄な未決死刑囚生活の末、2審で無期懲役となってしまい、生きなければならなくなっていました。

社会にいた頃ヤンキーとか警察のお世話になるような感じではなく、一見普通の女の子なのですが、働くのが嫌いで規範意識も薄く、悪い事を悪いとも思わず、親を金づるにし自由気ままに生きていました。反省などした事もなく、高飛車で自分を中心に世界は回っているというような、それ

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -



でいて外面が良いので周りからは良い子とかわれ
ていて、そんな私が無期となり、刑務所に来ても
初めは舐め切っていたのですが、無期は自分の生
活態度が出所を決めると言われて心を入れ替えて
1つの誓いを立てました。

「出所する迄真面目に生活し懲罰にならない事」

今迄何一つ続かなかった私がこれをやり遂げる
事で自信がつくと思つたし、何より償いになるだ
ろうと思いました。被害者の方達に恥ずかしくな
い生活をしていこうと誓いました。

私が入所した28年前は15年程で出所出来た
のですが、いつしか懲役30年が出来、それより
早く出所出来る事はないと絶望しましたが、不真
面目に生きてきた私が真面目を演じる事から始め
ました。最初はそうするしかなかったのです。で
もいつしかその演技も当然の事になり、真面目に
生活するのが普通の事になっていき、意志も強く
なり、周りにも流されず我が道を行く受刑生活を
順調に送ってきました。

10年20年位までは純粋な心で生活できてい
ましたが受刑生活が長くなるにつれて何もかもが
嫌になったりイライラが募り発狂しそうになった

り暴言を吐きそうになったりと表面上は普通にしているも心の中がどんどん荒んでいく様になりました。精神薬など飲んだ事もなかったのに今は薬漬けになっていますし、もう出所しなくても良いと思う事もあります。毎朝起きるとまた生きてる・・・とガツカリし、死ねばいいのと思っています。

それでも1類だし衛生係だし、職員さんからも一応信用されているし「いけない、いけない」と我慢の毎日です。言いたい事を言っただけに生活している万年5類の人が羨ましくて仕方ないし、でも28年の今迄の努力と我慢をバカな事をして失う勇気はありません。妄想が好きなので、いつも懲罰になってストレスを発散したり妄想で暴言を吐いたり傷つけたり。

そして私は、神様が生きて罪を償うだけでは足りないと思ったのか左目は視力がなくなり右目も矯正で0.01の視覚障害者となり試練を与えられています。決して死なせてはくれません。中途半端で苦しめられているのです。生き甲斐だった美容師の作業も奪われました。

いつ出所出来るかもわからず出所後の夢もあります。いつか目が見えなくなるかも知れず出所後の不安も沢山あります。もうどうなってもいいと最近は毎日思っただけでイライラが止まらず運動場をわあーと叫びながら全力で走りたい衝動に駆られます。でも唯一の救いがあり、

そのお陰でなんとか精神を保っているのです。それはCDで音楽を聴く事です。大音量で大好きなミュージシャンの音楽を聴く事で幸せを感じストレスを解消し、これを失くす訳には行かないと強く思うのです。音楽大好きな私によってCDが聴けるというのは生きる糧です。これがなくなってしまうとしたら、大袈裟かもしれませんが死んでしまうでしょう。陸に上がった魚のように。

長く生活すればする程頭がおかしくなりそうになるのは私だけでしょうか？今の生活を失う勇気はないけれど、失っても構わないと思う2つの心が葛藤しています。

特に長い方の意見を聞きたいです。ひよこ無期（まだ年数の短い人の事です（笑））はまだ一生懸命で私のこの気持ちはあまり理解出来ないと思いますが、初心に帰る為に意見を聞いてみたいです。特に模範囚の方の意見を聞きたいのですが考えは人それぞれで生活が長くなっても平常心できちんとされている方もいるでしょう。いろいろな方の意見を聞いて私も昔の純粋だった頃のような生活に戻りたいのでどうか無期懲役の皆さん私にいろいろな意見をお聞かせ下さい。お願いします。



ちちきみのおコーナー

■今回は許可を頂き、西部様という方の信仰告白の証を原文ママ転載させて頂きます。

僕の信仰告白の証

西部 悠太

1 楽しかった幼少年時代

これからイエス様に出会うまでをお話しさせていただくにあたり、まずは僕の幼少時代のことからお話したいと思います。幼稚園の年中のころから仙台に住み、緑の多い自然豊かな環境で小学3年生まで過ごしました。ここでは親友と呼べる友達が多くでき、毎日がとても楽しかった記憶があります。生き物が好きで昆虫などいろいろな捕まえてきては、飼育していました。環境や友達に恵まれてのびのびと過ごしていました。今思い返してみても良い日々だったなあと思います。

2 勉強の強制といじめの問題

小学4年生のときに、父の転勤により、生まれた岩槻市に戻ってきました。当時公立の中学でいじめが問題になっていましたので、両親の意向によりいじめのないと思われた、私立中学を受験することになりました。

塾通いの日々が始まり、家では両親の指導のもと勉強し、次第に成績は上がっていききました。テストの成績がいいと誇らしかった反面、成績が悪いと、また学習の理解が悪いと特に父親には尊厳を傷つけられる厳しい言葉を投げかけられ、つらい思いをしました。いつしか父親は成績によって自分を裁く恐怖の存在へと変わっていききました。

学校では転校生であり、また勉強ができたせいか、クラスの中心的人物をはじめ、仲のよかった友達からも無視されるようになり、いつのまにかいじめられるようになりました。中でもある仲の良かった友達から突然、もう友達じゃない、とはっきり言われたときは世界が崩落したような衝撃を受けました。それと同時に小学3年生のときに、自分も仲の良かった友達を仲間はずれにしてしまったことも思い出されてきました。他にも多くのいじめを目撃しました。そのとき、たとえ小学生といえども人間の心の中には悪があるという事実を知って驚き、また、人を信じて傷つけられるのを恐れ、その後の人間関係にも影響を与えていったと思います。しかしいじめを受けた時にも別に受け入れてくれる新しい友達ができただのは大きな救いでした。

3 開成中高時代・受験のプレッシャー

さて、受験が終わり、念願の開成中学に入学すること

ができました。僕はバスケットボールが好きだったので迷わずバスケットボール部に入りました。バスケットは楽しく大変でしたが、中高を通して打ち込めるものがあつたのは幸せなことでした。しかしバスケットをしている時以外はつらいことが多かったです。

家では両親から、勉強をするように圧力を受け続け、耐えがたいほどの苦痛を感じていました。あいかわらず塾や学校の成績で評価され続けていて、自分は世間体を気にする親の自己実現の手段でしかないと感じ、そのことで大きな憎しみと不信感を感じていくようになりました。友達もいましたが、自分が嫌いだったため素直に自分を表現することができず、人間関係が苦手で、心が通じ合うようなことはなく孤独でした。

そういうわけで、家にいても、学校にいても、一人で街を歩いていても、この広い世界のどこにも自分の居場所はないと感じる日々が多かったです。親や受験に対するやり場のない怒りや憎しみ、ストレス、それに激しい自己嫌悪や、受験のプレッシャーを抱え、高3のときにはついに極度の不安などから、突然心臓の鼓動が早まってしばらくとまらなくなるパニック障害を起こしました。そして勉強不足のため大学受験に失敗し、浪人することとなりました。

4 浪人時代・物理への関心

しかし浪人してよかったことの一つに物理と出会えた

ことがあります。物理は勉強すればするほど面白く、自然の中を貫いている物理法則の性質を知ってその意味を考えれば考えるほど、この世界は本当によくできていて不思議だなあと感嘆しました。ビッグ・バンから始まったこの世界の成り立ちのことをよく考え、今自分が生きていることは不思議なことだなあと感じていました。また、哲学も少しかじりました。

神は実際のところ存在するのかとも考えましたが、答えはいくら考えても分からなかったし、キリスト教の創造主なる神の存在を聞きもしませんでしたので、現在の科学で通説になっているようにすべて今あるものは偶然の結果生じた産物にすぎないのだという結論に落ち着かざるを得ませんでした。ですから人生には意味も目的もなく、虚無的に物事を捉える視点が自然と身についていきました。

5 東大入学・ドラムへの生きがい

一浪後に目標としていた東京大学に入学できたのですが、浪人時代に身につけた人生への諦念があつたため合格してもとりわけうれしくもなく、大学で学問をすることに特に期待は持てませんでした。そのかわり、中高時代に情熱を傾けた、バスケットボールに代わる新しい生きがいを求めています。

そんな中、浪人時代に始めたドラムがだんだん好きになり、一年目の秋の文化祭のライブがとても楽しかつ

たこともあり、音楽とドラムが大好きになりました。そうして僕はドラムに夢中になっていきました。大学の授業は無意味、無味乾燥であり、ドラムを叩いているときだけが生きている実感を持てたのです。毎日学校に行っているだけではドラムばかり叩いていました。そして大学を辞めて音楽にすべてを賭けてみたいと思うようになりました。

6 孤独の悩みとドラムの挫折

しかし僕には一つ大きな悩みがありました。それはドラムを叩いているとき以外は孤独であり、人間関係が希薄だったことです。新しく見ず知らずの人とバンドを組んでプロを目指してやっていきたいと思いましたが、一歩を踏み出すのが怖く、勇気がなくなためらっているうちに焦りだけが高まり、いつしか音楽とドラムに対する情熱も失われていってしまいました。そして自分で自分の人生を切り開いていくという一生で一度限りのチャンスを逃してしまったのだと思い、人生に失敗したのだと思うようになりました。

この挫折は未だかつてなかったほど大きく、自分を責める日が続きました。立ち直ることが永久に不可能であり、この先生きていっても何の意味もないと思えました。そして約一年に及ぶ絶望と虚無の日々が始まりました。この日々は本当に苦しかったです。何もかも無意味に思え、自分の存在を忘れたがために眠り続け、自殺の想像が繰り返し脳裏をよぎりました。

7 CCCとの出会い・クリスチャンとの交流

一年大学を留年して二年生になった2004年5月のある日、学校に行き、無意味な授業を抜け出し、ひどい絶望感と無気力の中、時計台の下で一人クレープを食べていました。

するとシンガポールから来たという二人の女の子が笑顔で話しかけてきました。こんな絶望的なオーラを出してクレープを食べている自分に何の用があるのだろうかという疑問に思いつつしばらく話していましたが、やがて彼女たちがクリスチャンであるということを知りました。彼女たちには今までの僕の友達とは何か違う心の温かさがあるのを感じました。そしてその週に彼女たちシンガポール人が日本の大学生を招いたパーティを開くというので誘われるがまま行ってみました。藁にでもすがりつきたい気持ちがあったと思います。

そこで日本キャンパスクルセードフォークライスト、通称CCCで働いているスタッフの人と知り合いになりました。その友達の誘いで、やがて毎週木曜日に三鷹で開かれる、大学生のクリスチャンが集まるビーツという集会に参加するようになりました。後で分かったことなのですが同時期に母が片柳教会に導かれたので、これは神様の計画だったのだと思います。

その年の夏に神戸でCCCのサマーキャンプがあり、そこで初めて僕は心の中にイエス様をお迎えしました。

死んでいた心の奥底にかすかに灯火が灯った気がし、このときの出来事は今振り返ってみるとイエス様を求めたい、信じたいという求道の決心だったと思います。その後の求道の道のりは平坦ではありませんでした。疑問や反発が多くありました。そんな中でも毎週ビーツに通い、いろいろな友達と交わりのときを持ちました。

自分があるのままでいてもよく、お互いがお互いを大事にしている空気が好きで、そこは何時行っても新鮮で楽しかったです。苦手だった人間関係も楽しめるようになりました。何よりも僕を受け入れてくれた多くの友達に感謝します。そして彼らはクリスチャンだったので、彼らが信じているキリスト教とは何なのだろうという内なる声が次第に大きくなっていきました。

8 聖書の学び・創造主なる神を知る

そんな時に母の紹介もあり、今年の三月二日から滝田先生との12課の学びがスタートしました。聖書の学びの中で、キリスト教とは何なのかという理解がゆっくりと深まっていきました。

その第一は創造主なる神様でした。

「初めに、神が天と地とを創造した」（創世記1：1）
創世記を読み神様が創造された天と地に注意を向けるようになりました。

「神は仰せられた。『地が植物、すなわち種を生じる草やその中に種がある実を結ぶ果樹を、種類にしたがって、

地の上に芽生えさせよ』そのようになった。地は植物、すなわち種を生じる草を、種類にしたがって、またその中に種がある実を結ぶ木を、種類にしたがって生じさせた。神はそれを見て良しとされた。夕があり、朝があった。第三日」（創世記1：11～13）

僕は本郷の農学部の中庭を散歩するのが好きで、そこに咲き誇る綺麗な草花を見てみると、それらの深い色彩と美しさの中に神の臨在を感じ、心が吸い込まれていきました。当時大学に行く最も大きな楽しみは、中庭の草花を注意深く観察することでした。また僕は海洋生物を学ぶ学科で、海の生き物にも興味がありました。

「神は仰せられた。『水には生き物が群がれ。鳥が地上、天の大空を飛べ』神は、海の巨獣と、種類にしたがって、水に群がりうごめくすべての生き物と、種類にしたがって、翼のあるすべての鳥を創造された。神はそれを見て良しとされた」（創世記1：20～21）

図鑑で見て、あるいはシュノーケルやダイビングで実際に海に潜って綺麗な魚や面白い魚を見たりすると、それらの形や色彩、表情に自然と心が奪われ、そのあまりの美しさや不思議さに驚嘆しました。ここでもその背後にこれらの生き物を創造した神様の存在を感じ、感動しました。このように、草花や魚などの被造物を通して、初めに神様は僕にその存在を静かに語りかけてくださいました。

9 罪の自覚とキリスト信仰の告白

第二に神様は僕に罪を示して下さいました。仲間我慢できなくなつて友達のせいにして大事なバンドを解散させてしまつたり、音楽を作る難しさを一人に押し付けてしまう感じで別のバンドも自然消滅させてしまったことが、罪の意識とともにしきりに思い出されていました。また今年7月の浜名湖における大学の臨海実習でのクラス友達との共同生活の中で、ある友達を避けるような態度をとってしまったこともありました。このように自分は神の前に罪人であり、これらの罪を許して下さいさう心から神に願いました。

イエス様の十字架を考えたとき、死海文書の発見や、使徒たちのその後の働きと殉教を考えると復活は事実であり、イエス様は僕の罪のために十字架上で死なれたのだと分かりました。9月の12課の学びの中で、イエス様を僕の罪からの救い主、そして人生の主として信じ心にお迎えし、信仰告白して救われました。そのとき、罪の赦しと、新しい命（永遠の命）を頂いたことを確信しました。

10 すべては神の恵み

最後に、救われてから神様から頂いた恵みについてお話ししたいと思います。

祈りを通して毎日神様と生きた対話を持てるようになったことが何よりも大きなことだと思います。RIC K WARRENさんの著書である「人生の五つの目的」という本を読むと毎日新しい発見があり、聖書のメッセージが分かりやすく書いてありとても役に立ちます。今までは生きていく意味が分からず虚無的でしたが、これからはイエス様を信じ、神の目的のために生きていきたいと思うようになりました。

最近学んだことは、何でも正直に神様にお話しすることを神様は望んでいらっしゃるということです。日々の生活でのいろいろなことを神様と分かち合うことによって神様との関係が深まっていけることがとても嬉しいです。感謝することや嬉しかったことや楽しかったこと、また、嫌なことや苦しかったことやいろいろな願いや悩みなど何でも話せることができるようになりました。

以前は僕にとってこの世界は、どこにも居場所がないと思うほど住みにくい場所でした。今、きれいな草花や木々や興味深い生き物、美しい空や海、夕焼けなどに出会つと、神様の創造されたこの世界は本当に偉大で素晴らしい場所であり、賛美の気持ちが溢れてきます。これらすべて過去、現在、未来の僕の罪が赦されているからだと思うと、いくら感謝してもしきれません。

第二コリント人への手紙5章17節に、

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られたものです。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

とあるとおりです。

また、ローマ人への手紙8章28節に、

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」とあります。

11 すべては益に

これまで僕が味わってきたすべての苦しみはことごとく有益だったと考えています。かつて苦しんだ分だけ、同じ苦しみを抱いている他の人たちを理解することができようになり、思いやることもできるようになると思うからです。

学校のクラスでもすべての友達と親しくやっていくことができようになり、苦手だった人間関係も回復されました。彼らのうちの何人かが感じている孤独感やむなしさ、またいろいろな悩みなどが分かるようになり、その友達たちのためにイエス様を伝えていけたらいいなと思えるようにもなれました。

また、家では両親との以前破綻していた関係も、主の恵みによって、愛と信頼の関係に回復されてきました。好きな音楽でも、この前の学園祭では神様にすべてを祈り委ね、信じることで素晴らしいライブをすることができ、神様の栄光を表すことができました。大好きな音楽を演奏する喜びを再び与えてくださって、神様には本当

に感謝しています。

12 すべてを感謝

初めてイエス様に出会ってからの2年半を振り返ったとき、そこに神様の大きな御恵みがあつたと感じずにはいられません。

僕を支えてくれた両親と家族に、妹の麻子やおばあちゃん、そして特に、僕のために今まで忍耐して祈り励ましてくれた母に感謝します。

また、12課の学びで僕を祈り励まし、導いて下さった滝田先生と、祈ってくださった教会のみなさんに感謝します。多くの人の祈りがあつてここまでくることができました。どうもありがとうございました。

最後に僕の好きな聖句をお読みいたします。

ヨハネ10章10節11節

「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます」
主にすべてを感謝します。

以上が僕の信仰告白の証です。



看護師 中谷先生による 健康相談窓口

皆さん、こんにちは。暑い日が続きましたね。熱中症になってぐったりしていませんか？台風が何度も、来ては次の台風と、お盆なのに台風もお盆休みももらえませんでしたね。

今月は、大人もかかる夏に流行するヘルパンギーナについて紹介します。子どもの病気に大人が感染すると子どもと比較すると、症状がひどく大変なことが多いです。



ヘルパンギーナとは

ヘルパンギーナは、ウイルスが原因で夏に流行しやすい感染症です。大人も発症しますが、子どもに多い感染症です。水ほう（水ぶくれ）を意味する「ヘルペス」と「痛み」を意味する「アンギーナ」という言葉があわさったのが病名の由来です。

ヘルパンギーナの原因ウイルスは、手足口病と同じタイプのウイルスです。

ヘルパンギーナの感染経路

ヘルパンギーナは、おおよそ3～6日間の潜伏期間を経て発症します。主な感染経路は、飛沫（ひまつ）感染、接触感染、経口感染です。

• 飛沫感染

感染した人のせきやくしゃみ、会話などで飛び散ったしぶきを吸い込むことで感染します。

• 接触感染

感染した人や、ウイルスが付着した物と接触することで感染します。作業時の機器の共有や水道の蛇口も感染原因になります。

• 経口感染

ウイルスが、手や指を介して口に入って感染します。排便後に、手洗いが不十分な場合に、感染するおそれがあります。

ヘルパンギーナの主な症状

発症すると、主に口の中やのどに、直径1～2mm、大きいもので5mm程度の水ぶくれや潰瘍ができ、痛みを伴います。食事も痛くて取れないこともおおくなります。また、突然、38℃以上の高熱が出ることもあり、それに伴って意識障害やけいれんが起る「熱性けいれん」が現れることもあります。



現在のところ、ヘルパンギーナを根本的に治す治療薬はありません。基本的には自身の免疫の働きによって自然に治るのを待つしかありません。しかし、辛いため症状を緩和する対症療法を行います。



今年の夏は、台湾を旅してきました。ちょうど台風5号が台湾に上陸するかどうかで飛行機がどうなるのか？の瀬戸際で飛んで、無事に行くことができました。ジブリ（千と千尋の神隠し）で有名になった九ふんへも行って来ました。風情がありましたよ。

皆様に雰囲気をお送りいたします。ちなみに、九ふんでやぶ蚊に刺され、足が腫れて痒みのお土産も貰ってきました。円安で、台湾も物価が高く、虫刺され用痒み止めを購入したところ、小さな小さなキンカンが1500円、日本のラーメンチェーンの台湾版で昼食をとり、ラーメンと餃子のセットで2700円なりー。高いですね。

食べ物は、おいしかったです、中華料理も毎日ですと、贅沢ながら飽きてしまいますよね。帰国後、おにぎりと味噌汁が美味しいとしみじみ感じました。



福音たより

■カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）より許可を頂き、ホームページのミサ説教を転載させて頂きます。

ハビエル・ガラダ神父 9月3日（日）WYD感謝ミサ（原文ママ）

今日の福音のことについて考えますが、キリストについていくということについて考えましょう。キリストについていく。24節に「わたしについて来たい者は自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と書いてあります。この「自分を捨てる」「十字架を背負う」「キリストに従う」という3つの動詞を簡単に説明します。

まず「自分を捨てる」。自己否定、これでいいのか。私は好きじゃないんですね、それは。好きじゃないだけではなくて、なぜ自分を捨てるんですか。なぜ自分を否定するんですか。これは掟に背いているんじゃないんですか。思い出しましょう。聖書の根本、基盤である言葉、「聞け、イスラエル。心を尽くし、体を尽くし、精神を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい。そして自分を愛するように隣人を愛しなさい」。ですから自分を愛

するということは掟ですね。根本的な、隣人と自分を愛する。

そうすると、キリストが自分を捨てるとおっしゃった時には何を言いたかったでしょうか。多分これでしょう。自分を捨てない、自分の好きな、欲しいものを困っている人に喜んで譲る、という意味で捨てるのです。ですから、自分を捨てるんじゃないくて、自分の好きなものを、捨てるのではなくて喜んで譲る。良いサマリア人のたとえ話は明らかですね。彼はその怪我人のために自分を捨てた、自分を犠牲にしたと思っていなかったでしょう。ただ、自分のお金、自分の時間などをもっと困っている人のために喜んで譲ったのです。この意味で譲るのです。

2番目の動詞、「十字架を背負う」。主に2つの種類の十字架が考えられます。1つは日々の面倒なこと、日常生活の嫌なこと。朝早く起きること自体は不条理ですね。十字架です。その1日の出だしが悪いですね。それから混んでる電車に乗って、仕事の疲れ、面倒くさい同僚もいるし、そして細かい上司に従うなど、面倒くさいですね。これは仕方がないですね。人生ってこんなものですよ。みんなそうですから、あまり気にしなくていい。

2番目の種類がもっと大きいですね。自分の特別な悩み、それがありますね。時々すごい悩みがありますね。たとえば健康の悩み、家庭の悩み、金銭的な悩み、人間

関係の悩み。失恋、これは若者たちの専門ですね。若者たちは失恋のオーソリティです。これは大変な悩みですね。その時にはどういうふうにそれを背負うのかというと、相田みつをがきれいな言葉を書きましたね、昔。「人間には絶対に歩きたくない道があります。しかし、いつかその道をどうしても歩かなければならない時が来ます。その時には、黙って歩くんだ。愚痴をこぼさないで、涙を流さないで、文句を言わないで黙って歩くんだ。そうすれば、自分の人間としての根は深まる」という言葉を書きました。こういうふうに十字架を背負うことにしましょう。

そして3番目の動詞、「キリストに従う」ということです。キリストに従うにはやっぱりキリストのようにならねばなりません。キリストとともに生きるのですが、それよりも私の好きな方法があります。それは、聖パウロがガラテアの信徒への手紙に書いた言葉です。2章20節です。「わたしは生きる。しかし、それよりもキリストがわたしたちの内に生きる」。この言葉ですね。わたしが生きる、それよりもキリストがわたしの内に生きる、これがいいですね。ですから、キリストに従って生きるではなくて、キリストが生きる。

例で言うと、昔のアイススケートの夫婦が優勝した、オリンピックの金メダルになって素晴らしかった。どういうふうに練習しますかと聞かれた時に、「練習ですか、

私たちはもちろん技術の練習はしますけれども、アイスに入って2人で目をつぶって音楽を聴くんです。何回も長く深く聴く。音楽に満たされて、それから音楽に従って踊り出すのではなくて、音楽が踊る」。これがいいですね。ですからキリストに従って生きることよりも、キリストが生きるように、それがいい。

ただ、危険がありますね。自分の好きなことを、自分ががままに従って、独断と偏見で決めてしまつて、それからどうでもいいことをイエスさまに向かって、イエスさま、何をなさりたいのですか、という危険性があります。そうではなくて、私はどうすればいいのか、と聞くよりも、イエスさまが何をしたいんですか、とキリストに聞けばいい。何をしたいんですか、じゃあどうしましょう。この生き方をすればいいと思います。そのためには音楽に満たされる必要性がありますね。キリストに満たされる必要性があります。祈りと愛によってキリストに満たされる。ではこの意味で自分を捨て、十字架を背負って、キリストに従うという恵みを願ひ求めましょう。



■9月1日～10月4日の「すべての命を守るための月間」に、シスター様が福音たよりのために「猫」について執筆してくださいました。

ミニ子ちゃんとノラ君物語

私達がこちらに来て、次々と野良猫が現れて、しかも子連れの親子3組の猫に出会いました。お母さん猫によつて違いがあり、私は猫について多くのことを学びました。市が野良猫ゼロの対策を打ち立て、それで、近頃は野良猫は来なくなりましたが、飼い猫がやって来るようになりました。

その中には飼い主にいじめられたようで、しつぽが切られていたり、前足の一番可愛い丸みのあるところが切られている可哀想な猫が来るようになりました。始めは目につくと追っ払っていたのですが、足を切られて、チンバを引いている猫、尾っぽを切られて、痛々しそうな有様を目にして可哀想になり、猫に触ったことのなかった私でしたが、「幸せになるのだよ」と頭をさすってあげるようになりました。

現在、私共の所に入っている猫は2匹で、そのうちのミニ子ちゃんは、子供の時一人でやって来て、一人の姉妹が見つけて、食堂の窓から見て、「小さな猫が居

るよ」と教えて下さり、私が見に行くと、物置の床下に潜つて、姿を隠してしまうのでした。私の記憶には小さなときの姿がありません。猫好きの姉妹が自分の食事の中から残して、餌をやるようになり、「オウドンも、オソーメンも、ラーメンも食べるよ」と感心していたのでした。残り物を食べてくれるので重宝していたのですが、そのうちに院長が猫用の餌を下さるようになり、いつの間には、それしか食べてくれないようになってしまいました。それでも、今はミニ子ちゃんとか、ミニちゃんとか、男の子のように元気がいいので、ミニ君とか呼んで可愛がってもらっています。この子は親のお乳を吸ったことがないのか、姉妹の作業着の腕をチュウチュウ吸つて、いじらしい時期もありました。若者になったので、遠出してなかなか姿を現さないのですが、おなががすと台所の入口に来て、可愛い声で、自分の存在を表します。器量はそんなに良くないのですが、その反面か、声は優しく、可愛い声です。このミニ子ちゃん、間もなく私共は雪国に引越すのですが、果たしてどうなることでしょう。幸せを祈るばかりです。

もう一匹の尾っぽを斬られた雄のノラ君は飼い主がいるみたいですが、悲しいかな、言葉が通じず、名前も分からないので、「ノラ君」と呼んでいます。一人の姉妹の想定では、兄妹ではないかとのことです。毛並みは似ていますが、ノラ君の方が丸顔で、目も大きく可愛いらしいです。気性もミニよりも大人しいです。尤も、自分



光りんさん

の存在をあらわすときにはすごい声で、やかましい位です。始めの頃は姿を見入ると追い返していたのですが、尾っぽを切られていることが分かり、「可哀想になって、「幸せになるのだよ」と声をかけて、頭をさすっています。信心深い姉妹がルルドの聖水の薄めたのを飲ませたり、傷につけたりしていたのですが、最近は飼い主がお医者さんに連れて行ったみたいで、きれいになりました。「よかったね」と声をかけてさすって上げています。このノラ君、近くに住んでいるみたいですが、自分のうちで食べたり、こちらに来て食べたり、何でも食べてくれるので重宝しています。折しも今は、「すべての命を大切に」の月間とあって、この2匹は私たちに可愛がられています。

五十嵐亜利沙による ラブリーDAY

子どもたちと当事者のKさんと一緒に牧場に行ってきました。Kさんと、囲いの中の羊は幸せなのかという話になったら、Kさんが「この羊を人間に例えるなら拘置所ですね、そして無期懲役」ご飯は貰えるけど、一生囲いの中にいて、夕方になると小屋に帰る、受刑者も刑務作業が終わると還房に帰るのと一緒にだというたとえ話をしていました。(笑)



五十嵐亜利沙による

育児日記



五十嵐亜利沙ブログ

地方に引っ越しをしました。四年生は一クラスしかないのですが、人見知りの長男Aは、なかなか友達ができなくて、不安から気持ち悪くなってよく保健室で休んでいました。「学校に行きたくない」と毎朝泣いていて、私も頭を抱え、フリースクールを探していました。神様にもお祈りをしていました。

そしたらある日、校長先生が、Aの居場所を作るためにクラスのみんなにお話をしてくれました。素直な子供たちは理解をしてくれて早速Aに話しかけてくれました。次の日の朝は友達が校門でAのことを待っていてくれました。それから徐々に友達が増えて、放課後は友達と遊ぶ機会が増え、私も安心しました。



長女Kは、登校初日「行きたくない」と泣いていたのですが、学校から帰宅すると、「友達できた！行ってよかった！」と、笑顔で話してくれて、今は毎日楽しく通っています。

次女のRと三女のMは、認定こども園に入園しました。先日は運動会だったのですが、組体操、鼓笛隊、ダンス、綱引きなど、盛りだくさんでしたが、とても頑張っていました。



受刑者の皆さんへお知らせ

○ 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。

○ お問い合わせが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。

○ MLP ペア決め現状：文通相手のいない受刑者を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。

○ 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。

○ フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。

○ 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 10 円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、4 月から手数料が 1 枚 5 円から 10 円に変更になりました。

（例）100 円切手 × 5 枚の場合：
500 円－手数料 10 円 × 5 枚分 ＝
受領額 450 円

○ 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- ・ 突然たよりが送られなくなった。
- ・ 刑期（出所日）が変更になった。
- ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから 2 ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
- ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。

○ たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

すっかり秋ですね。私は夏が大好きなので夏が終わって寂しい気持ちもありますが、過ぎしやすくなりました。さて、次のマザーハウスたよりの発行は 12 月になります。既に年末・・・1 年あっという間です。



マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。※4月1日より価格を改訂させていただきました。

コーヒー（粉）200g …1404 円（税込）

コーヒー（豆）200g …1404 円（税込）

カフェドリップ 10g(1 杯分) …162 円（税込）

継続して購入・販売してくださっている皆様（順不同）

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994 年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g（2g 入り 25 袋）… 1080 円（税込）

マリアコーヒー＆マリアの紅茶のご注文はウェブサイト・メール・FAXにて承っております。

FAX：03-6659-5270



ご注文・ご支援詳細

ラウレンシオ（便利屋業）

元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

*2020 年 12 月より、株式会社ルツに移行しました。

TEL：03-6659-2110

FAX：03-6659-2180

メール：info@ruth-llc.co.jp

古本募金（きしゃぽん）

書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先：

〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぽん係

TEL：0120-29-7000

* マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中 POST シリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員（一口5000 円／年） 賛助会員（一口3000 円）
社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

振込口座名：トクヒ）マザーハウス

郵便振替口：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F

マザーハウス TEL：03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org

マザーハウスたより 2023 年 10 月号

発行日：2023 年 10 月 15 日 発行責任者：原田 昇

〒130-0024 墨田区菊川 1-16-18-3F NPO 法人マザーハウス